



未来の福津への扉を開くために 福津市長 原崎 智仁

新しい年の始まりに、福津の未来を考えると、福津は今号では本市の基本構想を特集しました。

基本構想を策定するにあたり、対象者を無作為に選び、ご参加の皆様で将来像を検討いただいた「市民会議」や、公募でお集まりの皆様から福津の目指すべきビジョンをご提示いただいた「未来づくりワークショップ」などを対話によって行いました。また、福岡都市圏、国内外でご活躍される審議委員の皆様にも福津の良さをじっくり観察して

ただきながら、作成後のプロセスまでも含めて貴重なご意見をいただきました。このような過程を経て作り上げた基本構想は、多くの皆様の参画によるまさに「手作り」の『作品』です。

今後はこの『作品』に描かれた市の将来像である「一人も自然も未来につながるまち、福津。」の実現に向けて取り組みを進めていかなければならないと思っています。

市民サービスの質を落とさぬような施策を実行することが、まちづくりの主な担い手が

である行政の役割であることは変わりません。そのためには、これまで以上に企業や関係団体との連携を図る行動力や突破力、市民の皆様への力を導き出すための調整力やコミュニケーション能力が求められます。行政はこれらの力を高めていくことが必要です。

また、地方自治の理念は一人一人が当事者としてまちづくりに取り組むというものです。市民や企業などの皆様と共働のまちづくりを進めるためには、お互いが力を合わせ支え合うことができる場づくりが行政には必要です。これからは、市民サービスだけではなく、まちづくりの担い手がつながる場を提供する役割が行政に求められると思います。基本構想を皆様とともに作り上げたときに、その必要性を強く感じました。

まちづくりに関わる皆様と行政の力がつなげたとき、目指す市の将来像実現への扉が開くと思っています。

2030年の福津市に向けて

将来像達成のための進行管理

市の将来像である「一人も自然も未来につながるまち、福

津。」を実現するためには、基本構想の達成状況の把握や評価を行い、事業の改善を図ることが重要です。社会情勢の変化が激しく、財政状況が

厳しくなる中、各行政サービスの必要性や優先度を見極め、選択していく必要があります。市では基本構想に基づいた事業計画を実行するにあたり、

INTERVIEW 持続可能なまちづくりを進めていくために

津屋崎を拠点にまちづくりの第一人者として市内外で活躍している、総合計画審議会の会長を務めた津屋崎ランチ代表の山口覚さんに、未来に向けたまちづくりに必要なことについて聞きました。

全国的にまちづくりにおいて「共働」という言葉が出てきて20年近くになりますが、これまでは共働と言いつつも行政が作った計画を市民が手伝うという要素が強かったと感じています。これからはその逆で、市民がやろうというものを行政がバックアップしていく時代になりそうです。

実は、福津では昔からこの市民自らの力でまちを良くしようという力が強く、国民健康保険制度のもとになった定札や津屋崎千軒の町並み保存、松林の再生と保全活動、母親たち自らによる子育て支援など、市民が行政よりも先に活動していて、行政が後から市民を追い付けてきたという事例がたくさんあります。古くから脈々と受け継がれてきた「自分たちが住みやすい福津をつくっていく」という姿が、今回の基本構想の中で公共的に位置付けられたように感じ取れます。この基本構想ができたことで、市民は



まちを良くしたいとがんばる姿勢をこれまで以上に行政に見せる必要があります。そして、行政はしっかりと市民のがんばりを受け止める体制の構築が必要です。誰もが健康で幸せに暮らし続けられるよう、市民も行政も共に動き、それを次の世代に継承するということが、持続可能なまちをつくることだと思います。基本構想を通じて、改めて市民の力を、市民も行政も再認識してほしいと願っています。みんなで力を合わせて福津の未来を創っていきましょう。

PDC Aサイクルや、行政評価を活用するとともに、市民や関係団体、企業など共働で基本構想の進行管理をしていきます。

一人一人がまちづくりの担い手に

基本構想を策定するため、市民アンケート調査から始まり、未来会議やパブリックコメントなど、多くの市民の皆さんに参加していただきました。基本構想にはこれらの多くの人の思いが込められています。市民の皆さんとともに描いた市の将来像を実現するため、市は誰一人として取り残されない社会を目指した取り組みを行います。そして、「住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思える福津を市民の皆さんや行政とともに創り続けていきたいと考えています。

そのためには、市だけではなく、基本構想の策定後も市

▶基本構想の全文は市公式ホームページで公開しています



民、関係団体、企業など、さまざまな主体が、自分たちのまちづくりに関心を持ち、その推進に当事者として参画することが欠かせません。福津に関わる一人一人がまちづくりの担い手となることで、時代の変化という荒波にもまれたとしても、豊かな自然や歴史、文化など、皆さんそれぞれが残していきたい福津の素晴らしさを未来につなげていくことができると思っています。そして誰もが幸せになれるまちが実現していくと期待できます。

基本構想という羅針盤が示す「一人も自然も未来につながるまち、福津。」という、2030年の目的地に向かうための舵は皆さん一人一人の手元にあるのです。

幸せのまちづくりフォーラムと第1回ふくつSDGs賞表彰式を開催します



基本構想では、SDGsの考え方を踏まえた、持続可能で誰もが幸せに暮らせるまちづくりの推進を掲げています。このフォーラムでは、4,000人の市民を対象にした市民幸福度調査の結果を報告し、日本における幸福学の第一人者である前野隆司さんとともに「市民共働で推進する幸せのまちづくり」について考えます。また、市内の個人、企業、団体から募集した「第1回ふくつSDGs賞」の表彰を行います。

日時 2月3日(月) 18:00~20:00 ※開場17:30

場所 市役所別館大ホール 定員 先着100人

内容 講演「幸福学入門」、市民幸福度調査結果の報告
第1回ふくつSDGs賞表彰式

講演者 慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授
前野隆司さん

受付方法 参加者氏名、参加人数、電話番号をメールか電話、ファクスでお知らせください

受付期限 1月24日(金) ※受付終了のお知らせは、市公式ホームページに掲載します

受付、問い合わせ 市まちづくり推進室 ☎43・8121、FAX43・3168、
メール machizukuri@city.fukutsu.lg.jp



▲幸福学の専門家である前野さんと一緒に幸せのまちづくりについて考えてみましょう